



見沼たんぼくらのイベント

斜面林の体験学習—落葉かき 大和田緑地公園特別緑地保全地区

12月11日(日)9時30分、さいたま市立大宮体育館正門に集合。そこから、南側に広がる大和田緑地公園特別緑地保全地区に移動した。2ヶ所近くもある大宮台地縁の緑地帯で、大部分が斜面林の雑木林である。参加者は埼玉県土地水政策課見沼田圃担当の村田圭一主査はじめ23名。



北部雑木林で熊手を使った落葉かきを実習した。高木層はコナラとクヌギを主体にアカシデとイヌシデの混じった落葉広葉樹の典型的な雑木林である。縁にはガマズミやムラサキシキブの落葉低木が目立った。

熊手を初めて握ったという初老の男性もおれば、当緑地で毎月ボランティアの保全活動をしているベテランの女性もいた。約2時間の作業で落葉を薄く残しただけのすっきりした雑木林に生まれ変わった。

「冬の雑木林は、風が入ってこないし、木漏れ日が暖かくていいね。」という話が聞こえてきた。春には、落葉かきのお蔭で、タチツボスミレ・ウラシマソウ・アマドコロ・ホウチャクソウ・ジュウニヒトエ・フタリシズカなどが咲き乱れるお花畑が出現する。(小野 達二記)

菜の花栽培

春をいろどる菜の花は3月下旬から4月上旬に見ごろを迎え、見沼たんぼの桜の回廊とあわせて素晴らしい景色を見せてくれます。

今回で2回目となる菜の花栽培は桜の時期に咲くように昨年の10月下旬に種まきを行いました。場所は昨年と同じ緑区見沼610番地の1号地で面積は約1500㎡です。

昨年は一面に黄色の菜の花畑が広がり見事な景観を作っておりました。また、摘み取り体験では子供達が大きな歓声をあげて、背の丈より大きく育った菜の花の間にできた通路を嬉しそうに歩き、花を摘んだり時折かくれんぼをしたりして遊んでいました。今年も園児達に菜の花畑で見沼たんぼの春を楽しんで頂く予定です。

松尾芭蕉の俳句に「菜畑に花見顔なる雀かな」がありますが、こういった景色を見ることが出来るかもしれません。見沼たんぼに菜の花と桜の共演を見に来てははいかがでしょうか。(三上 雅央記)



見沼たんぼくらのイベント

『見沼塾』見沼たんぼの野鳥

見沼自然公園

小峯 昇

寒暖の差が大きい今日この頃、今朝もかなり冷え込みました。見沼たんぼくらの会員中心に32名の方が集まり、寒さに負けずにバードウォッチングです。

まずは、芝生の上で佇んでいるツグミを持参した望遠鏡で見てもらいました。双眼鏡に比べて倍率も高く明るいので、思っていたよりもきれいに見えます。

池にいた水鳥が陸に上がっていました。「野鳥に給餌しないように」という掲示もあるのですが、時々、餌をあげている人がいるようで、人が池に近づくと寄ってきてしまうのです。

今年はカモの数が全体的に少ないのですが、



ここでは6種類のカモ（オカヨシガモ、オナガガモ、カルガモ、コガモ、ハシビロガモ、ヒドリガモ）が間近に見られました。全身が黒く額からくちばしにかけて白のはオオバンです。一回り小さいただのバンもいます。こちらは額の色が白ではなく赤い色です。と、前方で小さい水鳥が潜り込みました。カイツブリです。

潜る水鳥と潜らない水鳥の体型の違いを、目の前にいるオオバンやカモを例に説明している時に、直ぐ近くから小鳥が飛び出し、水面上を一直線に飛んでいきました。カワセミです。今日はこの後、カワセミに何度も会うことができ、皆さん大喜びでした。いつ見ても、だれが見ても、カワセミの背の鮮やかなコバルトブルーは印象的です。

今日は、モズやシメもよく見られました。ちょっとずんぐりした体形のシメは、地面に下りたり枝に戻ったりと飛び回っていました。モズも杭の上などから尾をくるくる回しながら地面を見つめてなにかいないか探しているようです。時々、「キチキチキチ・・・」という甲高い声が

聞こえます。

望遠鏡が1台なので、早い者勝ちの世界になりましたが、運よく見られた方は、迫力のあるモズやシメの姿に感激でした。

奥の林では、シジュウカラ、コゲラ、アトリなどが出てきました。小さなコゲラがコツコツ木を叩く音が予想以上に大きかったのには皆さん驚いていました。



1月12日の下見で見られたアトリ

最後に、バードウォッチングする際には、一度に沢山覚えようとしないこと、5種覚えて2種忘れ、しっかり3種定着させることが大事で、何度も来て少しずつ覚えていくことが秘訣です、ということをお話して、締めくくりました。



観察された鳥 アオジ、アトリ、エナガ、オオバン、オカヨシガモ、オナガガモ、カイツブリ、カシラダカ、カルガモ、カワウ、カワセミ、カワラヒワ、キジバト、コガモ、コゲラ、シジュウカラ、シメ、シロハラ、スズメ、ツグミ、ハクセキレイ、ハシビロガモ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、バン、ヒドリガモ、ヒヨドリ、ホオジロ、ムクドリ、メジロ、モズ 31種

見沼たんぼ地域の会員関係イベント

雑木林体験—シイタケの種ごま打ち

2月25日(土)午前中、大和田緑地公園特別緑地保全地区(さいたま市見沼区)に於いて、表題の行事が実施されました。主催は「さいたま市みどり愛護会(会長 小野達二)」で毎年この時期の開催です。さいたま市みどり愛護会は平成8年5月、大宮みどり愛護会として設立し、その後さいたま市誕生に伴い現名称に改め、活動範囲も拡げています。当会の事務局はさいたま市みどり推進課であり、市所有などの斜面林を定期的に保全管理をしています。入会金や年会費は無く、無償ボランティアです。当日入会の意向の声も聞かれました。作業に要する用具や運営費及び傷害保険は市の負担となっています。会報「みどりのボランティア」を発行しています。現在定期的に活動しているのは9支部14緑地(雑木林及び屋敷林部)です。間伐・枝打ち・下草刈り・落葉掻き等により明るい雑木林に復元し、環境保全林としての機能を発揮させています。

本日の作業には公募の一般の人たち・ドングリの里親活動の参加者・さいたま市みどり愛護会会員・市担当者による80名(子供10名を含む)を超える方々が参加されました。作業に先立ち主催者からの挨拶、作業の趣旨・効果、作業地の状況、作業の手順・注意点などの説明の後、作業に移ります。作業内容は先ず雑木林の落葉掻き・ドングリの里親活動により昨秋期に集められた幼木の植替え(将来雑木林への植栽のため)が夫々分担して行われました。その作業終了後、事前に当会員の熟練者たちによりコナラ・クヌギなどの間伐材(40cm弱に切揃え)に、シイタケ菌を培養した「種ごま」埋込み用の穴開けされた「ほだ木」へ、参加者により木槌で打込み作業となります。参加した子供たちも初体験作業を一生懸命行いました。その完成したほだ木は家族単位で1~2本ほど持ち帰り頂きました。

シイタケの収穫までの管理に関する資料を配布して丁寧に解説しましたが、更に実際立派に収穫した当会員による具体的な説明もあり納得して散会しました。

(若野 忠男記)

第10回見沼スケッチ会展

2月21日から2月26日までの間、第10回見沼スケッチ会展が、さいたま市立大宮図書館展示室で開催されました。作品数はおおよそ80点、会員皆さんの力作が展示ボード一杯に並べられ、訪れる人を歓迎するのでした。

会員の皆さんの活動拠点は見沼たんぼを中心としており、春夏秋冬の色々な田んぼの姿が会場一杯に広がって、私たちを楽しませてくれました。

見沼たんぼは、江戸時代の八代将軍・吉宗公の時に開拓されたもので、その面積は日光の中禅寺



湖に匹敵するほどもあります。池があり、川があり、斜面林があり・・・と、豊かな自然に恵まれており、こうした自然が会員皆さんによって見事に描き出されておりました。

会を主宰する八木一郎先生は、スケッチ画は描き始めから完成までを、なるべく現場で仕上げる事を勧めておられるそうです。このためか、展示された一つ一つの画には迫力感があり、来訪者には、現場の情景が強く心に響いてくるのでした。

鬱蒼とした森に覆われた神社画の前に立つと、ピューピューと吹く風音が、耳に聞こえてくるのです。また、池畔に繁茂する草木の写った姿を池面に描き出した画は、鏡を見ているようで見事だ。作者が現場で眼の中に捕えた情景を、あたかも私たちが一緒になって拝見しているようでした。

あちこちで、色々な絵画展を拝見させて頂きましたが、このスケッチ展は、作者の描き出している情景が一段と強く、私の心に伝わってきたのでした。
(召田 紀雄記)

見沼たんぼ水彩スケッチ紀行

芝川の桜橋 (さいたま市緑区大間木)

東浦和駅から徒歩約15分のところ、芝川に架かる唯一といわれる木造の橋。画面の先は見沼通船堀。右岸の桜並木はまだ小さい膨らみだったが、岸边には柔らかく伸びたツクシやセリを摘む親子連れがみられた。

後方にはJR武蔵野線の陸橋が横切っており、線路脇に特殊車両の通過をカメラを構えて待つ多くの鉄道ファンの姿もあった。



見晴公園

JR土呂駅から東へ約8分、見沼代用水東縁の川島橋を渡った所、左方には面積14万㎡の緑豊かな市民の森(見沼グリーンセンター)があり、市民の憩いの場所となっている。

右方には小規模ながらも見沼たんぼには珍しい風車が回る見晴公園があり、春には前面に広がる菜の花畑と満開の桜の組み合わせが素晴らしく、市民にとって

もスケッチの対象としても貴重な場所となっている。

大崎園芸植物園の梅並木

大崎園芸公園に隣接する道には紅白の梅木が植えられており、ほのかな梅の香りが漂ってくる落ち着いた静かな散策が楽しめる遊歩道。

しかしながら、白梅・紅梅の描き別けには悩まされた一日となった。



絵と解説 八木一郎



見沼たんぼくらぶ会員作品展

氷川女體神社の御本殿

作者 齋藤義直

見沼たんぼを見下ろす高台に建つ神社。350年程前に徳川家綱の時代に再建築されて多くの文化財が貯蔵されており、社殿の周りは常緑樹に覆われ、神域としての存在を体感させてくれます。

拝殿に向かって右側に回り込むと訪れる人も少なく、静寂の中に御本殿が佇んでいます。絶景のスケッチポイントですが、私のスキルではこの情景を表現することができるか心配でした？

神様に叱られないよう頑張って描いてみました。



見沼たんぼ探訪記

新加田屋たんぼを飾るフナノ

緑区の見沼自然公園から見沼代用水東縁に沿って、緑のヘルシーロードを北進する。この辺りは春になると長い桜花のトンネルが出来、秋になると彼岸花が咲き競う所として知られているので、その季節になると、こうした花々を楽しむ人たちが賑わう所である。

正月も近づいた12月末の今日の冬空は、雲の姿は一つもなく晴れ渡り、少々の寒さはあるものの穏やかな日和である。冬陽を浴びながらサイクリングを楽しむ人、軽快な歩調で走り去るジョギングを楽しむ人・・・等々、冬の日といえどもヘルシーロードには人の動きは止まることが無い。



代用水に架かる締切橋を後にして300～400m進むと、左側の新加田屋たんぼの中に、今年もまた「フナノ」が見えてくる。稲を刈り取り、脱穀した後得られるワラを積み上げ、船の形に仕上げたわら塚である。昭和30年(1955)代までは、見沼たんぼのあちこちで見られた光景で、晩秋の風物詩にもなっていたという。

フナノの復元に付いては「見沼ファーム21(代表:島田由美子)」のメンバーが、作り方を知っている地元農家の古老たちから指導を得、50年ぶりに平成21年(2009)に復元させ、これまでに5回製作してきている。今年から、見沼ファーム21を始め当見沼たんぼくらぶもメンバーとなる「見沼たんぼの文化遺産・フナノ保存会」が製作することになり、11月上旬の3日間、延べ約90人の人たちの手によって完成させた。フナノ規模:縦4.5m、横2.6m、高さ3.8m
使用したわら:7500kg。

(召田 紀雄記)

冬の見沼通船堀りを歩く

歩いてみたのは早咲きの桜の便りが届く2月半ばであったが、朝夕の寒さはまだ真冬を感じさせていた。

JRの東浦和駅を降りて、正面の信号を渡り右手に回り込み、見沼代用水を渡ると右手に通船堀とその案内板が見えてくる。

見沼通船堀は享保年間に井澤弥惣兵衛為永によって開創された、見沼代用水と芝川の約3mの水位を調節し船を行き来させるという当時としては世界水準の閘門式運河であった。夏には「見沼通船閘門開通実演」も模様され、多くの見物人を集めている。

一の関、二の関を見ながら進み、芝川を渡りバス道に出た場所に水神様がある。また少し東浦和駅の方に戻ると見沼通線差配役をしていた鈴木家の重厚な母屋が存在感を見せている。

通船堀の両側は見事な桜並木となっており、3月末頃には花を見る人や史跡巡りをする人で一段と賑やかさを増す。

休憩所から少し先、見沼代用水東縁の端に木曾路の富士塚がある。登ってみると眼下に通船堀がよく見えてよく晴れていれば富士山も見えるはずである。



今回は雪景色の通船堀を写真におさめようと思っていたが、思ったように雪は降らず単調な歩きとなってしまったが、桜が咲く時期にまた来てみようと思う。

(佐々木 明男記)

見沼たんぼの仲間たちNo.41

ガールスカウト埼玉県第5団

八木佳容子

ガールスカウト活動は、1909年にイギリスで始まり、現在、146の国と地域に1,000万人の会員がおり、世界各地で「すべての少女と女性」がより良い社会に暮らせるよう、「自己啓発」「人とのまじわり」「自然とともに」という3つのポイントを大切にしながら自分たちでやりたいことを見つけ、計画を立てて実行している社会教育団体です。

私たちガールスカウト埼玉県第5団は、浦和駅の東側を活動拠点とし、幼稚園年長児～高校生までがスカウトとして登録しています。

一緒に見沼代用水浴いをハイキングしたり、キャンプで寝泊まりするテントを子ども達だけで立てたり、野外料理、ロープワークを駆使して作るキャンプクラフト、茶道の稽古を積んでのお茶会開催、街頭募金の協力など、少女たちとさまざまな活動に取り組んでいます。

また、世界に仲間がいますので、海外のスカウトとの交流や海外派遣などにも積極的に参加しています。保護者からの要望もあり、数年に一度、田んぼの活動もしています。幼稚園年長児～小学校3年生が見沼田んぼで行われる埼玉県のボランティア田んぼの体験に参加しました。



田植え体験では、泥んこの田んぼになかなか入れずに畦で立ち往生する子、長靴で田んぼに入って足が抜けなくなる子、作業中しりもちをつけてパンツまでドロドロになる子など、いろんな子ども達の姿を見ることができました。

草取りの時は、目立つ草だけ抜いてどんどん進んでしまい、あっという間に終わりにしてしまう



子もいる反面、大人と一緒にひとつひとつ丁寧に草を取り、自分の担当した列が終わったら、他の子が適当に草取りした列に移動して戻ってくるという感心する子もいてそれぞれの性格が出る活動となりました。

稲刈りの日は、おにぎり持参で一日作業でした。待ちに待った収穫でしたが、あまりの重労働さに「お米を作るって大変なんだね」とつぶやいていた子もいて、一連の作業でお米作りの大変さが身にしみた様子。天日干しした稲を農家の方が脱



穀・精米して、1ヶ月後に収穫祭で羽釜で炊いた新米ごはんと野菜たっぷりの豚汁、自家製の生姜の味噌漬けなどをごちそうしてくださり、最後にビニール袋に入っ

た新米をお土産にいただいて、それぞれの家庭でも美味しい新米を楽しむことができ、大変さもおいしさも大満足の田んぼの体験となりました。

これからも見沼の豊かな自然の中でいろいろな活動ができることを楽しみにしています。

見沼たんぼを支える農家さん

“礫耕栽培” トマトの細沼和明さん

大宮体育館の東側、住宅地の一角に、直売所で人気のトマトを栽培している細沼和明さんのお宅があります。

お父さんの代には桃を栽培していましたが、まわりの宅地化が進んだことと、木の寿命もちょうど重なって、和明さんが引き継いでからハウス栽培のトマトに切り替えました。合わせて300坪程



(細沼和明さん)

のハウスでトマトを栽培しています。珍しい“礫耕栽培”という、5分砂利ほどの礫を用いる方法で、礫を洗うことで連作障害を防ぐことができるそうです。

トマト栽培では苗を購入することも多いのですが、細沼さんは種から育てています。トマトの木振りは作る人によって違う、と聞いてびっくり！それに今の管理具合が2~3週間後にでるそうで、何年やっても成果を計るのは難しい、葉を見て、多少はわかっても、100%はわからない。もっとわかるようになりたい。旅行から帰ると真っ先にトマトを見に行く、と語る言葉の端々から、謙虚にひたむきにトマトに寄り添う熱い思いが伝わってきます。

市場に出す場合には、どうしても見た目の良さが評価の基準になります。農薬を使わずに丹精込めて作ったものでも、規格に合わなければB・C級品としてタダ同然の値段で取引されてしまいます。安心して、美味しいトマトを食べてもらいたいと、農薬を使わずに栽培している細沼さん。

すべて直売で販売、店頭に並ぶとすぐに売り切れてしまう人気です。

しょうがないかなと思って農家を継いだ、という和明さんは、ご子息の広光さんには、継がなくていいよと言っていたそうです。けれど、自らの意志で農業を選んだ広光さんは、今では良きライバル。それぞれに自分の担当ハウスを持っていて、お互い切磋琢磨して、美味しく安心して食べられるトマト作りに励んでいます。

部長を務めておられる東武アーバンパークライン大和田駅に近い大和田直売所は、設立発起人のお一人としてずっと参加、そして今では各地の秋の

風物詩にもなっているコスモス祭りを最初に始めたのも大和田直売所でした。また、3年ほど前からは、市営大宮球場近くの耕作放棄地300坪にチューリップの球根を植える活動も行っています。



(ハウスの中のトマト)

時期になると黄色のチューリップが一面に咲き誇るそうです。

庭先では奥様が、今年初出荷の河津桜の枝を束ねておられました。ほころび始めたピンクの花びらが、日溜まりの中で揺れていました。

取材：島田由美子・高橋いずみ

文責：高橋いずみ

直売所：大和田直売所、JA木崎ぐるめ米ランド、土呂直売所

ご自宅でも購入可：見沼区大和田町1-613

見沼たんぼくらのイベント案内

平成29年度見沼たんぼくらぶ総会

日時：4月22日（土）10時

会場：見沼グリーンセンター2F中会議室

交通：JR宇都宮線土呂駅東口から徒歩10分

第69回自然観察ハイキング『春の七草とサトザクラ（ウコンとヤエザクラ）』

日時：4月22日（土）13時～16時

集合地：市民の森正門

参加費：¥500（ただし、会員は無料）

申込み：当日、集合地で12時30分から受付
見沼ふれあい農園づくり『京芋・里芋・八つ頭栽培<会員限定・無料> 初回は種芋植付

日時：5月1日（月）8時（受付7時30分）

会場：1号地（緑区見沼610及び613）

*事前申込み（参加者には現地案内図送付）

第70回自然観察ハイキング『ノアザミはじめ春の花を楽しむ』

日時：5月21日（日）9時30分～12時30分

集合地：見沼自然公園

参加費：¥500（ただし、会員は無料）

申込み：当日、集合地で9時から受付

交通：大宮駅東口からバス⑦「締切橋」下車、南側（約30分乗車）

第110回見沼塾『見沼たんぼ地域の遺跡<見沼縁の「おや？」と思うモノ>』

講師：下村克彦氏（元さいたま市立博物館長）

日時：6月3日（土）14時

会場：さいたま市立大宮図書館

参加費：無料

申込み：当会まで事前申込み、先着50名

交通：大宮駅東口から徒歩約15分、氷川参道二の鳥居東側

第111回見沼塾『氷川神社参拝・境内案内と講演<氷川神社の歴史と年中祭祀>』

講師：東角井真臣氏（権宮司）

日時：6月18日（日）14時

集合地：氷川神社入口（氷川参道三の鳥居）

参加費：無料

申込み：当会まで事前申込み、先着50名

見沼たんぼくらぶ入会を勧めます

見沼たんぼをもっと知りたい

見沼たんぼの自然にふれてみたい

見沼たんぼで何かしたい

見沼たんぼの保全に協力したい

そんな皆さまをお待ちしています！

■ 季刊『みぬま通信』を郵送します。

4月・7月・10月・1月発行

■ 埼玉県土地水政策課の支援のもとに、見沼たんぼ地域の里やまで、様々な体験事業を展開しています。子どもから年寄まで気軽に楽しめるイベントです。

○…見沼ふれあい農園づくり

農地はスタッフが耕運し、畝づくりを済ませ、種蒔き・植付から除草、収穫までの作業です。

「京芋・里芋・八つ頭栽培」や「秋野菜栽培」などを楽しみ、福祉施設にも寄贈しています。

○…自然観察ハイキング

自然観察指導員のガイドで、年4回、史跡を巡りながら花や鳥など見て回ります。

○…見沼たんぼ清掃ボランティア

○…斜面林の体験学習

○…見沼塾—見沼の自然や文化を学ぶ講座

■ 年会費 個人（同居の家族単位）・団体・企業とも1口¥1,000（団体・企業は3口以上）

みぬま通信第70号

発行日 平成29年月4月1日

発行所 見沼たんぼくらぶ

〒337-0053 さいたま市見沼区大和田町
1-2124-3 小野方

TEL・FAX (048) 683-1764

E-mail t.ono@axel.ocn.ne.jp

URL <http://minumatanbo.web.fc2.com/>

© 2017 Minuma Tuusin